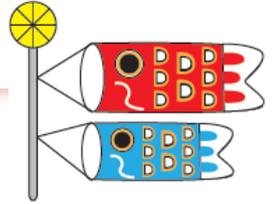




御嶽山 火山防災だより

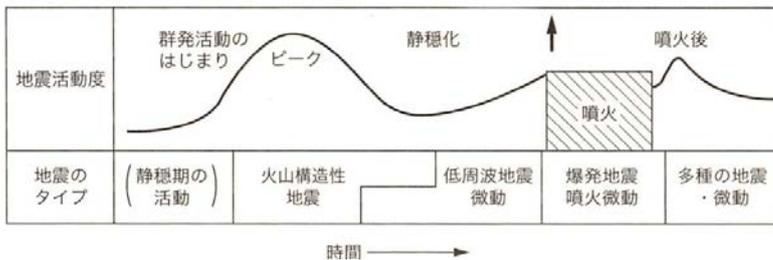


◆火山で発生する低周波地震◆

前回に続き火山で発生する地震の種類についての紹介です。今回は、火山で発生する低周波地震についてお話しします。低周波地震は、高い周波数の地震（火山防災だよりvol17 記載の「A型地震」など）に比較して用いられる専門用語で、火山の浅い場所と深い場所で発生するものがあることが知られています。地下数kmの浅いところで発生する低周波地震は、浅部低周波地震と呼ばれることもあり、マグマや熱水の動き（振動など）に関連して発生すると考えられています。一方、地下5～30kmの深いところで発生する低周波地震は、深部低周波地震と呼ばれ、マグマが割れ目を移動する時や、岩盤の中に入る時に発生すると考えられています。

噴火の前には、地震活動は次のような経過をたどる例が知られています。マグマの上昇が始まると周辺の岩盤を破壊し、火山性構造地震（A型地震）の活動が高まります。マグマが浅い所に達すると地下水などに触れ、低周波地震や微動が発生します。この頃、全体的な地震活動が低下し、嵐の前の静けさのような状態になり、その後噴火が発生します。全ての噴火がこの経過をたどる訳ではありませんが、心構えとして参考になります。深部低周波地震も火山活動と密接に関係し、富士山ではマグマが岩盤に入る時に発生したと考えられています。

《火山活動に伴う地震と低周波地震の時間変化》



西村・井口 (2006) 日本の火山性地震と微動より

◆◆第6回 御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会を開催しました◆◆

平成 26 年 3 月 10 日、中津川市のにぎわいプラザにおいて第 6 回検討会が開催されました。検討会では、「御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画」の進捗を効果的にするため、PDCAサイクル【Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）】を推進し、役割分担を明確にするよう、検討会規約が改正されました。今後は、新たに設置された4つの専門部会（ハード対策、ソフト対策、防災啓発、避難警戒）において、より具体的で実効性のある対策検討が進むことが期待されます。

検討会の座長挨拶
をされる平松晋也
信州大学教授



御嶽山のめぐみ ⑪

江戸時代に木曾の黒沢口登山道を開いた覚明行者は、その後、飛騨の登山口も開きました。

村人の案内のもと、「くらがり八丁」を過ぎ、「巖立て八丁」を登りつめ、御嶽山が遠望できる原の中ほどへ着きました。「わたしが開山に成功した時、この場に霊峰をあらわすであります。」そうって礼を述べると、覚明行者は一人で御嶽の霊峰を目ざし、大森林の中へ消えていきました。

夏が過ぎ、秋になっても戻りません。心配に思った村人が、覚明行者と別れた「原八丁」へと登っていくと、そこには、御嶽山にそっくりの形をした黒い岩が地中から生えたようにでていました。これを「御嶽岩」といいます。

翌年の夏、覚明行者を探しに「二ノ池」まで来た村人が目にしたものは、すでに白骨に近いものの錫杖をにぎりしめ、ジーンと西方を見つめて立ちはだかる、覚明行者のお姿でした。

その後、覚明行者が開いた登山道を通り、多くの人々が御嶽山をめざしました。今も残る御嶽岩には、多大なめぐみをもたらしてくれた覚明行者の思いが息づいているようにみえます。



● 伝説の残る「御嶽岩」

※このおはなしは、「小坂のむかし話」を参照。

御嶽山と人

あきがみ
「秋神温泉旅館」ご主人

小林 繁さん



身近に採れる山菜をもとにね、先人の知恵を活用しようと料理の研究を始めていくうちに、植物や動物、地質など関係してくる自然を学んでいきました。

昭和54年の噴火は、びっくりしたよね。ただ、あの山が生きてるってことは知っていました。二ノ池の周囲を回ると地獄谷が見える所があってね、特に寒い時に登ったら、シューと音が聞こえるんですよ。その地獄谷上部の溶岩は、もうボロボロに赤く焼けてしまっていて、熱源のある山っていう感じがよくできていたね。呼吸していたんですよ。

噴火後、初めて富山大学の先生と登った時にね、頂上の尾根伝いにあった山小屋が全部火山灰をかぶっちゃって、噴石で穴が開いているんですよ。それがぜんぜん地球上の世界でない、ねずみ色の不思議な世界ね。すごいエネルギーですよ。

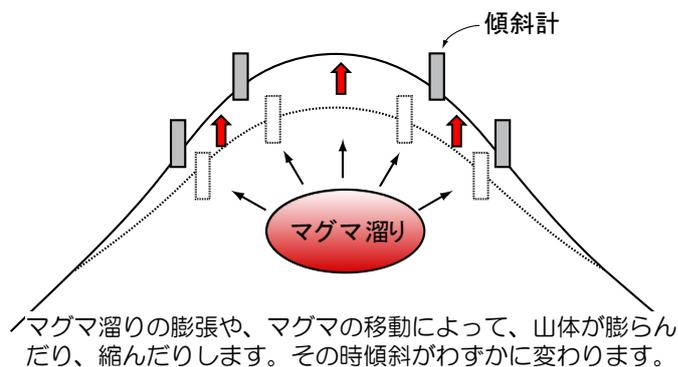
それで剣ヶ峰という御嶽神社の社があるんですが、その辺いっぱい石が飛んできていのに、社は傷がついてないんですよ。御嶽山は、美しくもすごくあらたかな、不思議な山やね。人間をあれだけ清め、修行させ、あらたな心に入れ替えさせ、救ってきた山は、本物だったっていう気はしましたね。こんなことはいつもあるものではないからこそ、かえって怖いですよ。とにかく、情報を集めて、逃げるという判断力が必要だね。

地層を調べると開田や木曾の方では、過去に1mぐらい灰が積もった跡が見られます。だから雨が降って地震がきたら、崩壊しやすい。長野県西部地震で王滝の土石流が流れた時に、とっさに猿の逃げて行った方へついていったっていう人もいます。これもまた、ひとつの知恵として大事ですよ。

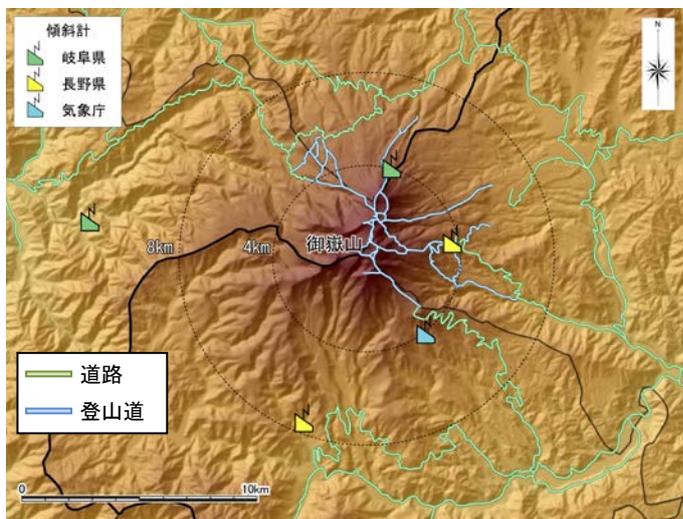
◆火山監視④ 傾斜計◆

マグマ溜まりが膨む時や、マグマが岩盤の中に入る時に火山はわずかに膨らみます。この時、火山の斜面では、傾きが極わずかに変化します。この傾きを計測するのが傾斜計になります。傾斜計は、水準器と同じ原理で器に入った気泡が動くことで傾きを検知します。火山で用いられる傾斜計は、10km先で1mmの上下変動が生じた傾きを検出できるものが使用されています。

御嶽山では、気象庁が田ノ原に1カ所、長野県が2カ所、岐阜県が2カ所の傾斜計を設置しています。



◀ 御嶽山周辺の傾斜計 ▶



御嶽山周辺に設置されている傾斜計

既刊はこちら↓ (多治見砂防国道事務所HP内)

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/sabo/ontake/tayori.html>

国土交通省中部地方整備局 多治見砂防国道事務所

〒507-0023

岐阜県多治見市小田町4-8-6

砂防調査課

TEL: 0572-25-8020 (代表)

FAX: 0572-25-7994

E-mail: tajimi@cbr.mlit.go.jp

協力：王滝村・木曾町・高山市・下呂市